

事業所名	児童発達支援センター 総合療育センター にこにこ通園	支援プログラム	作成日	2025年	3月	1日
------	-------------------------------	---------	-----	-------	----	----

法人（事業所）理念	北九州市福祉事業団は、人と知識と技術を結集して一人ひとりの幸せを大切にする社会づくりに貢献します。利用者が一人の人格として当然扱われるべき尊厳を保ち、幸せで文化的な生活を確保できるよう利用者のニーズに対応しながら、ご家庭や地域での生活を支援します。								
支援方針	①保育活動を中心に、お子さまの発達や特性をご家族に知っていただくための支援をし、お子さまの発達に合わせた遊びや具体的な関わりを通して、ご家族と一緒に子育てを考えていきます。 ②クラス担任（保育士・指導員）、医師、看護師、心理士、その他多職種と連携しながらチームで支援を行います。								
営業時間	8時	30分	から	17時	0分	まで	送迎実施の有無	あり	なし
支 援 内 容									
本人支援	健康・生活	◎体調管理に配慮し、安全に健康に過ごす ◎身辺自立の向上・維持・獲得 健康—基本的な生活リズムを整える（睡眠状態含む） 食事—安全に楽しく食事をする（味覚の広がり、摂食・嚥下機能の練習） ・スプーン操作や箸の練習、自立 排泄—皮膚の状態を知る ・排泄の感覚を知る ・トイレトレーニングの開始、自立 着脱—協力動作、更衣動作の練習・自立 衛生面—手洗い、歯磨き							
	運動・感覚	◎遊びを通して、粗大運動・微細運動の発達を促していく ◎遊びを通して色々な感覚を経験をする							
	遊び・認知・行動	◎いろいろな保育活動に参加し、人や物への興味・関心を広げる。 ・大人とかかわりを持ちながら、好きな遊びを見つけ快反応を増やす。 ・好きな遊びを増やし、情緒の安定や意欲につなげ自分を表現する。 ◎認知：制作や机上活動等の遊びを通して、大・小や色、数の概念等の理解を促していく。 ◎行動：大人の声かけや関わり工夫と同時に視覚支援等を利用し、周囲の状況や人からの関わりに気付いたり、応じたり、見通しを持って行動したりすることへ繋げていく。							
	言語 コミュニケーション	・いろいろな手段を使って、大人や友達とコミュニケーションをとる機会を設定し促していく。 ・生活場面や好きな遊びの中で発声を促していく。 ・要求表現を獲得し、自発的な表出を促していく。							
	人間関係 社会性	・大人からの援助を受け入れる。 ・友達に関心を持つ。 ・大人の援助を受けながら友達と一緒に遊ぶ経験をする。 ・遊びの中で交渉する経験を持ち、友達とのやり取りを促していく。 ・小集団での活動に参加し、順番を待つ、並ぶなどルールを理解する。 ・母子分離で活動に参加する。 ・就学に向けての準備を進めながら、入学への期待を高める。							
家族支援	・親の思いを受け止め、育児を楽しめるよう支援する ・個別、集団の場面での療育を、家庭で般化出来るように伝える ・地域で活動する場（幼稚園・保育所等）との連携をすすめる ・本人の能力を最大限に引き出し、全体的発達を促す ・医師、看護、リハスタッフ等、多職種による保護者講座を行う ・兄弟の発達に合わせて必要時に行事などを通じて障害の理解を促していく			移行支援		・子どもの状態像を整理しながら、保護者と一緒に進路の検討を行う ・進路については保護者講座を行い、また相談に応じていく ・就学に向けてサポートブックの制作や学校見学実施、相談に応じる			
地域支援・地域連携	・所属先との連携 ・医療施設、福祉、教育施設などの関係機関と情報共有を勧める ・交流保育を通して地域との関わる機会を持つ ・季節の行事を経験し、園外保育などを通し地域とのかかわりを持つ			職員の質の向上		・福祉・医療・リハビリの専門性を学び他職種連携に努め、円滑に業務を遂行できることを目的に、必要な研修を段階的に受講する ・所内科内での研修、ケース検討			
主な行事等	自然に触れ、季節の遊びや行事を経験する。 夏まつり・園外保育・保育参観・お楽しみ会・交流保育等								